

2020 年度  
講義概要(シラバス)  
2 年生  
3 年生

松江総合医療専門学校  
看護学科

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期
基礎分野	社会学	1(30)	2年	後期
担当教員	香川 奈緒美	実務経験	大学准教授として大学、専門学校にて教授経験あり。	
授業形態	講義 演習			
目的	社会学の基本的な発想や視点について学ぶ。			
目標	1. 人と社会との関わりについて理解を深める。 2. 現代社会の特徴について理解を深める。 3. 社会学的な知見の活かし方を学ぶ。			
授業内容	回	項 目	内 容	
	1 5 6	社会学の基本的発想	(1) イントロダクション (2) 社会学的視点 前半 (3) 社会学的視点 後半 (4) ジェンダー 前半 (5) ジェンダー 後半 (6) 平等について	
	7 5 11	正常/逸脱の社会学的理解	(7) 不登校について 前半 (8) 不登校について 後半 (9) 幼児教育 (10) 死について考える 前半 (11) 死について考える 後半	
	12 5 15	グループプロジェクト	(12) グループプロジェクト 概要 (13) グループプロジェクト 協議・準備 (14) グループ発表 前半 (15) グループ発表 後半	
教科書 参考書	講義内にて指示 系統看護学講座 社会学 第6版 (医学書院)			
評価方法	平常点、レポート、グループプロジェクトにて評価を行う。			

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期
基礎分野	人間関係論	1(30)	2年	前期
担当教員	荒川 ゆかり	実務経験	公認心理師として勤務経験あり。	
授業形態	講義 演習			
目的	看護には必須の、人と人との関係性の在り方を科学的に理解する。人間を成長し発達しつづける存在として捉え、人を深く理解しようとする視点をもつ。			
目標	看護を含めた社会的支援は、援助を必要とする人たちとの密接な関係の上に成り立っており、対人関係の知識とスキルの高さを求められる。多くの他職種との協働を行う際においても、人間関係は避けることのできないものである。 そこで、この授業では実践的な実習を中心におき、自己洞察、他者への理解への姿勢、表現力、対応力などを学び実践できる能力を養うことを目標とする。			
授業内容	回	項目	内 容	
	1	オリエンテーション		
	2	人間存在と人間関係	自己理解と他者理解 心身相関	
		コミュニケーション	非言語的表現やコミュニケーション	
		人間関係向上へのスキル	傾聴 受容と態度 アクティブリスニング	
	14	人間関係への理解	信頼関係の構築にむけて 悲嘆と願い	
		保健医療チームの人間関係	リーダーシップ チームワーク コンセンサス グループダイナミクスなど	
15	まとめ			
教科書	系統看護学講座 基礎分野 人間関係論 第3版(医学書院)			
参考書				
評価方法	レポート提出 体験的な実習が多いため、出席を重視します。			

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期
基礎分野	カウンセリング理論	1(30)	2年	前期
担当教員	大野 晋平	実務経験	臨床心理士として実務経験あり。	
授業形態	講義 演習			
目的	自己理解を深め、他者への共感的理解を深めるための実践的方法論を学ぶ。			
目標	こころの世界への探求を通じて、カウンセリングという営みを理解することができる。また、カウンセリングにおける心理学的なものを見方を理解し、現実生活へ活かすことができる。			
授業内容	回	項目	内 容	
	1 3	カウンセリングってなんだろう？	1. イントロダクション 2. カウンセリング概論① 3. カウンセリング概論②	
	4 6	こころの世界への入り口	4. 自己理解① 5. 自己理解② 6. 自己理解③	
	7 9	こころの病気ってなんだろう？	7. 精神病理学① 8. 精神病理学② 9. 精神病理学③	
	10 12	さまざまな側面からみたこころ	10. 思春期心理① 11. 思春期心理② 12. 思春期心理③	
	13 15	カウンセリングとそれを取り巻くもの	13. カウンセリング再考① 14. カウンセリング再考② 15. 総まとめ	
	※授業内容は適宜変更する場合があります。			
教科書 参考書	資料配布			
評価方法	平常点と筆記試験で評価する			

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期
基礎分野	倫理学	1(15)	3年	前期
担当教員	紫 民芳	実務経験	高等学校、短期大学、専門学校にて教授経験あり。	
授業形態	講義			
目的	医療、保健、福祉に従事する者は、その利用者の不安、悩み、悲しみ、痛みを癒し慰め支援することである。かけがえのない生命、一回限りの人生を如何に全うせしめるか、専門職として存在意義と使命を自覚し、その社会的責任を負うという倫理性を探究することである。			
目標	人間が人間たらしめるもの、斯くありたい、かくあらねばならないという人間力を高めることである。その為には、人間の尊厳を理解し、それを日常生活で具体化し、習慣化することである。			
授業内容		項 目	内 容	
	1	倫理学とは何か	個人の倫理と共同社会の規範 大震災と日本の精神文化(日本の心)	
	2	人権意識と職業倫理	(1) 人間の尊厳(天賦の権利) (2) 専門職としての倫理(基本的人権と日本国憲法) (3) ヒポクラテスの誓い	
	3	専門職の科学性と文化性の視点	(1) マズローのヒューマン、ニーズの階層 (2) プロ意識と責任(信頼を高める)	
	4 ・ 5	生命倫理と東洋思想 —現代社会の病理—	(1) 禅学、碩学に学ぶ (2) 学校、地域社会の教育力と倫理 ①いじめの構造特徴と指導 ②自死を考える ③ギャンブルとアルコール依存症	
	6	家の倫理	(1) 居場所のない子 (2) Domestic Violence (3) 高齢者の権利侵害(虐待、詐欺) (4) 援助の基本的態度と倫理	
	7	宗教的倫理 生命の神秘性と医学倫理	(1) 宗教的生死観(戒律を学ぶ) (2) 生命倫理(生命と向き合う) (脳死、尊厳死、安楽死) (3) 死の恐怖からの脱却	
	8	テスト	記述式問題・講義の感想等	
教科書 参考書	なし			
評価方法	筆記試験(70%) 出席および受講態度(20%)、講義中の小レポート(10%)			

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期
基礎分野	教育学	1(30)	3年	前期
担当教員	塩津 英樹	実務経験	大学准教授として大学、専門学校にて教授経験あり。	
授業形態	講義			
目的	本講義では、教育の理論と方法を体系的に学習することを通して、看護に活用する能力を養う。			
目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育の意義、目的、理論、方法等について理解している。</li> <li>2. 現代社会における様々な課題を教育の視点から理解している。</li> <li>3. 「教育」という事象を手掛かりにして、多面的な視野を獲得している。</li> </ol>			
授業内容	回	項目	内 容	
	1	オリエンテーション	教育の意義と人間形成	
	2	教育と子供(1)	「子供」の誕生と教育	
	3	教育と子供(2)	「学校」の成立と教育	
	4	教育と子供(3)	「子供の権利」と教育	
	5	教育とケア(1)	「道徳」と教育	
	6	教育とケア(2)	子供の道徳性の発達	
	7	教育とケア(3)	「ケア」の概念	
	8	教育と生命倫理(1)	尊厳死、臓器移植	
	9	教育と生命倫理(2)	代理出産、「いのち」の教育	
	10	教育と共生社会(1)	特別ニーズ教育とインクルーシブ教育(1)	
	11	教育と共生社会(2)	特別ニーズ教育とインクルーシブ教育(2)	
	12	教育と現代社会(1)	異文化理解教育	
	13	教育と現代社会(2)	いじめ問題	
	14	プレゼンテーション(1)	グループ発表①	
15	プレゼンテーション(2)	グループ発表②		
教科書	看護のための教育学 初版 (医学書院)			
参考書				
評価方法	受講態度、レポート、筆記試験等により総合的に評価する。			

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期
基礎分野	英語Ⅱ(看護英語)	1(30)	2年	前期
担当教員	田中 芳文	実務経験	大学教授として大学、専門学校にて教授経験あり。	
授業形態	講義			
目的	看護・医療の現場に基づく話題を通して、現場で必要とされる語彙や表現を学び、英語を聞く・話す・読むことを中心に英語の基礎体力を養う。また、今後、看護・医療の現場に出たときに英語に触れる機会があることを想定し、必要に応じて適確な英語学習が出来るようにその学習方法を学ぶ。			
目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 英語Ⅰでの学習を踏まえ、英語の基礎学力を高める。</li> <li>2. 看護・医療の現場に必要な語彙や表現を習得する。</li> <li>3. 英語のコロケーションを中心に英語の基礎的な語彙力の向上を図る。</li> <li>4. 英語の医療語についての理解を深める。</li> <li>5. 生涯学習ができるよう、自立した英語学習方法を習得する。</li> </ol>			
授業内容	回	項目	内 容	
	1	Unit 1	授業の進め方(必ず英和辞典持参)	
	2	Unit 2	英語の言語活動	
	3	Unit 3	英語の言語活動	
	4	Unit 4	英語の言語活動	
	5	Unit 5	英語の言語活動	
	6	Unit 6	英語の言語活動	
	7	Unit 7	英語の言語活動	
	8	Unit 8	英語の言語活動	
	9	Unit 9	英語の言語活動	
	10	Unit 10	英語の言語活動	
	11	Unit 11	英語の言語活動	
	12	Unit 12	英語の言語活動	
	13	Unit 13	英語の言語活動	
	14	Unit 14	英語の言語活動	
	15	Unit 15	英語の言語活動	
	※進度に応じて変更もある。			
教科書 参考書	教科書 『英語を学ぶ看護学生に贈るStories for Nurses』 初版 (看護の科学社) 『看護師として生きる 自分の選択』 初版 (西村書店) 参考書 英和辞典・医学用語辞典			
評価方法	下記の基準で総合的に評価する。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 出席, 毎回の授業の予習・復習, 積極的な授業参加 (30%)</li> <li>2. レポート (20%)</li> <li>3. 期末試験 (50%)</li> </ol>			

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期
専門基礎分野	病理学Ⅲ (内分泌・代謝・腎・泌尿・女性生殖器)	1(30)	2年	前期
担当教員	並河 整、秦 幸吉 小海 力	実務経験	医師として病院勤務経験あり。	
授業形態	講義			
目的	解剖生理学の知識に加え、病理学総論で学んだ病変を来した健康障害について、臓器系統別に主たる疾患と治療・処置・検査などから理解する。また、診療時に行われる各種治療・処置・検査法の概要を学び、健康障害の理解を深め、看護実践に活用する。			
目標	成人の内分泌、代謝・腎、泌尿器・女性生殖器系の病態・治療・処置・検査について学ぶ。			
授業内容	回	項目	内容	
	1 ～ 5	内分泌・代謝系の解剖生理 主な症状・検査	1. 構造・機能 2. 意識障害、テタニー、頭痛、吐き気、嘔吐 3. ホルモンの血中濃度、尿中濃度、負荷試験	
		主な疾患の病態生理 治療・処置	1. 視床下部-下垂体系疾患 2. 甲状腺疾患 3. 糖尿病、高血圧症 4. 肥満症とメタボリックシンドローム 5. 尿酸代謝障害	
	6 ～ 10	腎泌尿器系の解剖生理 主な症状・検査	1. 構造・機能 2. 尿の異常、頻尿、尿失禁、排尿困難、浮腫、電解質異常、疼痛 3. 尿検査、腎機能検査、生検、内視鏡検査	
		治療・処置	1. 排尿管理 2. 透析療法(血液透析、腹膜透析) 3. 腎移植	
		主な疾患の病態生理	1. 急性、慢性腎不全 2. 糸球体腎炎、腎盂腎炎 3. 尿路結石症、前立腺がん	
	11 ～ 15	女性生殖器系の解剖生理 主な症状・検査	1. 構造・機能 2. 出血、帯下、掻痒感、自律神経症状 3. 理学的検査、病理検査、妊娠検査、染色体・遺伝子検査	
		治療・処置	1. 膣洗浄、ダグラス窩穿刺 2. 内科的治療 薬物療法、化学療法、放射線療法 3. 外科的治療 手術療法	
		主な疾患の病態生理	1. 性分化異常、外陰・膣疾患 2. 子宮・卵巣・乳腺の疾患 3. 不妊・性感染症	
	教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 内分泌・代謝 第15版(医学書院) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 腎・泌尿器 第15版(医学書院) 病気がみえる vol.9 婦人科・乳腺外科 第4版(メディックメディア)		
参考書				
評価方法	筆記試験			



分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期	
専門基礎分野	病理学Ⅳ(感覚器・感染症)	1(30)	2年	前期	
担当教員	内海 康生、渋谷 勇三 岩元 純一、関 龍太郎	実務経験	医師として病院勤務経験あり。		
授業形態	講義				
目的	解剖生理学の知識に加え、病理学総論で学んだ病変を来した健康障害について、臓器系統別に主たる疾患と治療・処置・検査などから理解する。また、診療時に行われる各種治療・処置・検査法の概要を学び、健康障害の理解を深め、看護実践に活用する。				
目標	成人の感覚器・感染症の病態・治療・処置・検査について学ぶ。				
授業内容	回	項目	内容		
	1 5	皮膚科系の解剖生理 主な症状・検査	1. 構造・機能 2. 発疹、掻痒、皮膚の老化 3. 免疫・アレルギー検査、光線過敏症検査、病原微生物検査		
		治療・処置	1. 内服、外用療法 2. 手術療法 3. 光線、レーザー療法 4. 凍結、温熱療法		
		主な疾患の病態生理	1. 表在性皮膚疾患 2. 真皮・皮下の疾患 3. 脈管系の疾患、腫瘍		
	6 10	感覚器系の解剖生理 主な症状・検査	1. 構造・機能(眼・耳鼻咽喉) 2. 視力・視野・色覚障害、充血、眼脂、難聴、眩暈、鼻閉、鼻出血、嚥下障害、言語障害 3. 視力・眼底・眼圧検査、聴力・平衡機能検査、嗅覚・味覚検査		
		治療・処置	1. 点眼・洗眼法、屈折矯正、手術療法 2. 点耳・鼓膜切開、手術療法 3. 点鼻・ネブライザー法、手術療法		
		主な疾患の病態生理	1. 眼瞼・結膜の疾患、眼底の疾患、水晶体の疾患 2. 外耳炎、中耳炎、メニエール 3. 鼻炎、副鼻腔炎、咽頭がん、喉頭がん		
	11 15	感染症 主な症状・検査	1. 感染症とは 2. 上気道・頭部・筋・骨に観られる症状、胸痛、腹痛、不明熱 3. 塗抹・培養検査、抗原・抗体検査、ウイルス・毒素の検査		
		治療・処置	1. 抗菌薬治療 2. 一次予防・二次予防		
		主な疾患の病態生理	1. インフルエンザ、肺炎、心内膜炎 2. 食中毒、膀胱炎、腎盂腎炎 3. 髄膜炎、敗血症、HIV		
	教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 皮膚 第15版(医学書院) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 眼 第14版(医学書院) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 耳鼻咽喉 第14版(医学書院) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ アレルギー・膠原病・感染症 第15版(医学書院)			
	参考書				
評価方法	筆記試験				

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期	
専門基礎分野	病理学Ⅴ (小児疾患、妊娠・分娩・産褥期の疾患)	1(30)	2年	前期	
担当教員	田中 雄二、秦 幸吉	実務経験	医師として病院勤務経験あり。		
授業形態	講義				
目的	解剖生理学の知識に加え、病理学総論で学んだ病変を来した健康障害について、成長発達の中の小児・母性の主たる疾患と治療・処置・検査などから理解する。また、診療時に行われる各種治療・処置・検査法の概要を学び、健康障害の理解を深め、看護実践に活用する。				
目標	小児・母子に関わる疾患の病態・治療・処置・検査について学ぶ。				
授業内容	回	項目	内容		
	1	免疫・アレルギー性疾患	アレルギーの分類, 食物アレルギー, 気管支喘息, 原発性免疫不全症, 若年性特発性関節炎, など		
	2 ・ 3	感染症	ウイルス感染症(麻疹, 風疹, 伝染性紅斑, 水痘, 突発性発疹, 帯状疱疹, 手足口病, プール熱, ムンプス, インフルエンザ), 細菌感染症(百日咳, ブドウ球菌感染症, 溶血性レンサ球菌感染症, 病原性大腸菌感染症, 化膿性髄膜炎, 結核), など		
	4	血液疾患	鉄欠乏性貧血, 血友病, ビタミンK欠乏症, 血小板減少性紫斑病, 血管性紫斑病, など		
	5	悪性新生物	急性リンパ芽球性白血病, 骨髄性白血病, 神経芽腫, など		
	6	精神疾患, 染色体異常	発達障害, 摂食障害, ダウン症候群, ターナー症候群, など		
	7	代謝性疾患	先天性代謝異常, 糖尿病, 低血糖症, アセトン血性嘔吐症, など		
	8	内分泌疾患	成長ホルモン分泌不全性低身長症, 先天性甲状腺機能低下症, 先天性副腎過形成症, 中枢性思春期早発症, など		
	9	新生児疾患	新生児仮死, 新生児一過性多呼吸, 新生児黄疸, 脳室周囲白質軟化症, 呼吸窮迫症候群, light-for-dates児, など		
	10 ・ 11	(母性疾患) 妊娠期の異常	1. ハイリスク妊娠(糖尿病, 心疾患, 貧血, 腎疾患など) 2. 妊娠期の感染症 3. 妊娠疾患(妊娠悪阻, 妊娠高血圧症候群, 血液型不適合など) 4. 流・早産, 子宮外妊娠		
	12 ・ 13	分娩期の異常	1. 産道・娩出力の異常 2. 胎児の異常による分娩障害 3. 胎児付属物の異常 4. 分娩損傷・出血・会陰切開・帝王切開		
	14 ・ 15	産褥期の異常	1. 子宮復古不全 2. 産褥期の発熱 3. 乳房トラブル 4. 精神障害		
	教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論 第14版 奈良間美保(医学書院)			
	参考書	病気がみえる vol.10 産科 第4版(メディックメディア)			
評価方法	筆記試験				

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期
専門基礎分野	病理学Ⅴ、小児看護学Ⅱ (小児疾患)	(30)	2年	前期
担当教員	田中 雄二	実務経験	医師として病院にて実務経験あり。	
授業形態	講義			
目的	解剖生理学の知識に加え、病理学総論で学んだ病変を来した健康障害について、成長発達の中の小児の主たる疾患と治療・処置・検査などから理解する。また、診療時に行われる各種治療・処置・検査法の概要を学び、健康障害の理解を深め、看護実践に活用する。			
目標	小児に関わる疾患の病態・治療・処置・検査について学ぶ。			
授業内容	回	項目	内 容	
	1	免疫・アレルギー性疾患	アレルギーの分類, 食物アレルギー, 気管支喘息, 原発性免疫不全症, 若年性特発性関節炎, など	
	2 ・ 3	感染症	ウイルス感染症(麻疹, 風疹, 伝染性紅斑, 水痘, 突発性発疹, 帯状疱疹, 手足口病, プール熱, ムンプス, インフルエンザ), 細菌感染症(百日咳, ブドウ球菌感染症, 溶血性レンサ球菌感染症, 病原性大腸菌感染症, 化膿性髄膜炎, 結核), など	
	4	呼吸器疾患	クループ症候群, 急性気管支炎, 細気管支炎, 肺炎, など	
	5	循環器疾患	心室中隔欠損症, ファロー四徴症, 川崎病, 突然死, など	
	6 ・ 7	消化器疾患	肥厚性幽門狭窄症, 腸重積症, 急性虫垂炎, 臍ヘルニア, 胆道閉鎖症, ウイルス肝炎, 急性胃腸炎, など	
	8	血液疾患	鉄欠乏性貧血, 血友病, ビタミンK欠乏症, 血小板減少性紫斑病, 血管性紫斑病, など	
	9	悪性新生物	急性リンパ芽球性白血病, 骨髄性白血病, 神経芽腫, など	
	10	腎・泌尿器・生殖器疾患	急性腎炎症候群, ネフローゼ症候群, 尿路感染症, など	
	11	神経疾患	てんかん, 熱性けいれん, 脳性麻痺, 無菌性髄膜炎, 急性脳症, ギラン・バレー症候群, 筋ジストロフィー症, など	
	12	精神疾患, 染色体異常	発達障害, 摂食障害, ダウン症候群, ターナー症候群, など	
	13	新生児疾患	新生児仮死, 新生児一過性多呼吸, 新生児黄疸, 脳室周囲白質軟化症, 呼吸窮迫症候群, light-for-dates児, など	
	14	代謝性疾患	先天性代謝異常, 糖尿病, 低血糖症, アセトン血性嘔吐症, など	
	15	内分泌疾患	成長ホルモン分泌不全性低身長症, 先天性甲状腺機能低下症, 先天性副腎過形成症, 中枢性思春期早発症, など	
	教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論 第14版 奈良間美保(医学書院)		
参考書				
評価方法	筆記試験			

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期
専門基礎分野	病理学Ⅵ (精神保健、精神疾患)	1(30)	2年	前期
担当教員	奥田 亮	実務経験	医師として病院勤務経験あり。	
授業形態	講義			
目的	心の発達と心の働きに関連する要因及び特性、概念と発達さらに人間行動の理解を深める。 また、精神が障害されたことによりおこる行動の変化を理解することができる。			
目標	人間の心の発達と働き、性の概念と意義について理解し、精神保健の重要性を学ぶ。 精神疾患の病態・治療・処置・検査について学ぶ。			
授業内容	回	項目	内容	
	1 3	(精神保健)  心の発達と健康	1. 心とは何か 2. 心の構造と働き 3. 心の健康作りとからだの健康作りの関係 4. 心の健康と環境 5. からだの成長と心の発達 6. 人間関係にはぐくまれる個人の心 7. 心の問題への対応 8. 家族関係と心の健康 9. 教育環境と心の健康 10. 職場の環境変化と心の健康 11. 危機状況と心の働き	
	4 5 7	性の発達と健康	1. 自我の構造・機能・防衛機能 2. フロイトの発達論 3. 自我の社会化 4. ストレスと対処行動 5. フラストレーションに対する対処行動 6. 適応と心身の健康 7. ライフステージにおける発達課題	
	8	(精神疾患) 主な症状	1. 精神症状 2. 精神病像	
	9	検査	1. 身体検査 2. 心理テスト(知能・性格)	
	10 11	治療	1. 身体療法 2. 精神療法 3. リハビリテーション療法	
	12 5 15	主な疾患	1. 器質性精神病 2. 精神活性物質による精神および行動の異常 3. てんかん 4. 統合失調症 5. 躁鬱病 6. 神経症・心因反応 7. 人格障害 8. 精神発達遅滞	
	教科書 参考書	NICE 精神看護学Ⅰ 精神保健・多職種のつながり 第2版(南江堂) NICE 精神看護学Ⅱ 臨床で活かすケア 第2版(南江堂)		
評価方法	筆記試験			

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期
専門基礎分野	公衆衛生学	1(30)	2年	後期
担当教員	関 龍太郎	実務経験	医師として病院勤務経験あり。	
授業形態	講義			
目的・目標 (科目の概要)	<p>公衆衛生の講義は、現代社会において、平均寿命および健康寿命を延伸するために必要な公衆衛生について総合的に理解を深めるとともに、専門職として「医の倫理」について理解を一層深めることを目的としたものです。公衆衛生の目的、過程、評価についての基本的な方法論を理解することと看護活動を行うにあたって関係する法規を理解することを、講義の到達目標としています。</p> <p>病気にはまだまだ原因不明のものが多くあります。また、ひとりだけで守れない病気が数多くあります。予防すること、早期発見、早期対応、そして、地域社会の組織的な努力は大切です。一次予防、二次予防、三次予防のポイントはどこにあるのでしょうか。また、気をつけても、事故にあったり病気になることもあります。看護学、リハ医学、介護予防は、ある時点からの人間としての復権を目指し努力するものです。</p>			
授業内容	回	項目	内 容	
	1 ・ 2	公衆衛生とは	1. 感染症・食中毒とそれの対応 ① 新型肺炎 ② サーズ ③ エボラ出血熱 ④ その他	
	3 ・ 5	健康危機管理と公衆衛生	1. 水俣病 2. サリドマイドとそれの対応から学ぶ 1. 災害とそれの対応 2. メルトダウン 3. その他	
	6	生活習慣病と公衆衛生	1. がん 2. タバコ 3. 脂質 4. 認知症 5. 地区診断 6. 生活習慣病と労働環境病	
	7 ・ 8	公衆衛生とこころの病気	1. パニック障害 2. うつ病 3. 認知症 4. 発達障害 5. 不安症 6. 過労自殺	
	9 ・ 10	公衆衛生と職場	1. 過労死 2. 過労自殺 3. 職業性がん 4. 腰痛症 5. 熱中症 6. VDT関連障害	
	11 ・ 12	公衆衛生とリハビリテーション	1. 障がい福祉 2. 脳卒中 3. ICF 4. こころのリハビリテーション 5. がんと就労 6. ノーマリゼーション	
	13 ・ 14	公衆衛生と社会	1. 水俣病 2. 江津災害 3. サリン 4. 松江水害 5. 地震 6. 災害医療 7. 女たちの戦場 8. 地区診断	
	15	公衆衛生と医療計画	1. 医療計画 2. 地域包括ケア 3. 介護予防 4. デンマークに学ぶもの	
	教科書	Medical Care and Public Health(公衆衛生がみえる) 2020-2021 (メディックメディア) 国民衛生の動向 最新版 (厚生労働統計協会)		
参考書	看護覚え書 第7版 (現代社) デンマークの高齢者福祉政策を支えるもの/関龍太郎/海外社会保障情報/2008年1月 国民の福祉と介護の動向 (厚生労働統計協会) 保険と年金の動向 (厚生労働統計協会)			
授業方法	グループワークではノートを作成します。各自ノートを持参してください。			
教材 (例:パソコン・ビデオ)	看護、公衆衛生、リハビリテーションに関連のあるビデオ、パワーポイント使用			
成績評価	出席状況、授業態度、試験により総合評価			
備考	各学校の定期試験、国家試験には、医療法、身分法等の法的なこと、公衆衛生、健康の定義等、定説になったこと、近年話題になっている医療情勢、数学的なことがよく出ています。			

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期	
専門基礎分野	社会福祉	2(30)	2年	前期	
担当教員	紫 俊英	実務経験	専門学校にて教授経験あり。		
授業形態	講義				
目的	社会福祉と医療・社会保障の関連、地域福祉・福祉サービスについて学ぶ。				
目標	人がより良い生活を実現するための社会福祉制度・社会保障、社会資源の活用方法を学ぶ。				
授業内容	回	項目	内 容		
	1	社会保障制度と社会福祉	1. 社会保障制度 2. 社会福祉の法制度		
	2	現代社会の変化と 社会保障・社会福祉の動向	1. 現代社会の変化 2. 社会保障・社会福祉の動向		
	3	医療保障	1. 医療保障制度の沿革・構造・体系 2. 健康保険と国民健康保険 3. 高齢者医療制度 4. 保険診療の仕組み 5. 公費負担医療 6. 国民医療費		
	4	介護保障	1. 介護保険制度創設の背景と介護保障の歴史 2. 介護保険制度 3. 介護保険制度の課題と展望		
	5	所得保障	1. 所得保障制度の仕組み 2. 年金保障制度 3. 社会手当 4. 労働保険制度		
	6	公的扶助	1. 貧困・低所得問題と公的扶助制度 2. 生活保護の仕組み 3. 低所得者対策 4. 近年の動向		
	7 8 9	社会福祉の分野とサービス	1. 高齢者福祉 2. 障害者福祉 3. 児童家庭福祉		
	10 11 12	社会福祉実践と医療・看護	1. 個別援助技術 2. 集団援助技術 3. 間接援助技術と関連援助技術 4. 社会福祉援助の検討課題 5. 連携の重要性 6. 社会福祉実践と医療・看護との連携 7. 連携の場面とその方法		
	13 14	社会福祉の歴史	1. 西欧の社会福祉史 2. 日本の社会福祉史		
	15	まとめ	国策・エネルギー革命の裏側、戦争等について		
	教科書 参考書	系統看護学講座 専門基礎分野「社会保障・社会福祉」健康支援と社会保障制度③第21版 (医学書院)			
	評価方法	授業の出欠状況・取り組み姿勢、筆記試験により総合的に評価する。			

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期
専門基礎分野	関係法規	1(30)	3学年	前期
担当教員	関 龍太郎、内田 眞澄 坂根 光紀	実務経験	専門学校にて教授経験あり。	
授業形態	講義			
目的・目標 (科目のねらい)	<p>現在、日本は少子高齢化が進み、平均寿命の延長により社会の構造の変化が著しい。その日本において看護の専門職者はあらゆる人々を対象とし、また活動の場もあらゆる場に拡大しています。それに伴い看護職者の担う役割は一層拡大してきています。人々の健康に関わる看護職者は人々の健康の保持・増進・疾病の予防・回復をはかっていきます。その人々は社会生活者であることから幅広い知識を学ぶ必要があります。</p> <p>そこで、人が生まれ死に至るまでどのような法・規則などにより生きる権利、義務、責任があるのか、一人ひとりの人が生きる尊厳は現代社会においてそのように護られているのか、様々な法・法規を学ぶ必要があります。また、看護師は看護の専門性を発揮するために自らの専門職の基盤となる保健師助産師看護師法について学び理解しておく必要があります。その上で自律した看護師により自立した看護の専門性が発揮されることが求められています。</p> <p>人間の健康、医療にかかわる法について学び、看護師として必要な能力を身につけていきます。</p>			
授業内容	回	項目	内容	
	1.2	法律の概念	1. 法律の概論	
	3 ~ 12	各種の関係法規 1. 医療法規 2. 薬事法規 3. 保健衛生法規 4. 予防衛生法規 5. 環境保全・公害関係法規 6. 環境衛生法規 7. 福祉関係法規 8. 労働関係法規	1. 医療法 2. 薬務法 3. 環境衛生法、食品衛生法 4. 環境法 5. 労働契約法、労働基準法、労働安全衛生法 6. 感染症法、検疫法、予防接種法 7. 医療保険、健康保険法など 8. 介護保険法 9. 社会福祉法、生活保護法など 10. 母子保健法、母体保護法、児童福祉法	
	13 ~ 15	看護と関係法規	1. 看護職の役割と関係法規とのかわり 2. 看護の保障と関係法規	
		看護活動と関係機関	1. 守秘義務 2. 医療過誤 3. チーム医療と看護の責任 4. 看護学生の臨地実習と関係法規	
地域看護領域		1. 保健所と市町村保健センター 2. 産業保健 3. 職域における健康管理 4. 学校保健分野 5. 成年後見制度		
看護活動と行政機関 福祉施設		1. 国の行政組織 2. 地方公共団体 3. 保健施設、老人福祉施設		
		保健師助産師看護師法	1. 看護六法 2. 保健師助産師看護師法	
教科書 参考書	系統看護学講座 専門基礎分野 看護関係法令 52版(医学書院) 看護六法 看護者の基本的責任 看護の中の看護活動 上巻			
授業方法	グループワーク			
備考	2025年問題 地域包括ケアシステム 中核都市保健計画			

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期
専門分野Ⅰ	看護研究	1(30)	3年	前期
担当教員	阿川 啓子	実務経験	看護師として病院勤務経験あり。	
授業形態	演習 講義			
目的	看護学全体の主要概念を理解し、各看護学に共通する看護行為の基礎となる知識、技術、態度を学ぶ。 看護専門職として基礎的能力を養い、看護実践の基本を習得することができる。 看護活動を円滑に行うための管理について理解することができる。			
目標	看護研究の基礎を学び、看護実践における研究の意義・方法を理解する。			
授業内容	回	項目	内 容	
	1 ┌ 6	看護研究	1. 看護における研究の役割、研究課題の選択 2. 文献検討の意義と活用方法、研究における仮説の立て方 3. 研究デザイン、事例研究と研究計画書の相違点 4. 研究データの作り方と収集、データ分析と記載方法 5. 看護基礎教育における研究例とその過程、研究発表の方法、 研究計画書を書いてみよう①	
	7 ・ 8	研究計画の完成	6. 研究計画書を書いてみよう②、 倫理審査に関わる書類の作成① 7. 8. 研究計画書の完成、 倫理審査に関わる書類の作成②	
	9 ┌ 15	事例研究	9-15. 指導担当教員に分かれて指示をもらいながら事例検討(ケーススタディ)をまとめる	
教科書 参考書	南裕子. 看護における研究 第2版 日本看護協会出版会			
評価方法	レポート、筆記試験			



分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期
専門分野Ⅱ	成人看護学Ⅲ (内分泌・代謝・腎・泌尿・女性生殖器)	1(30)	2年	前期
担当教員	石川 万里子、増原 清子 比良 静代	実務経験	看護師として病院勤務経験あり。	
授業形態	講義 演習			
目的	成人期にある対象の特徴と健康の保持・増進の重要性を理解し、健康レベルや状況に応じた看護を実践するための基礎的知識・技術・態度を養う。			
目標	成人期に特徴的な疾患を学び、それぞれの経過・症状・治療別に応じた看護の実際を学ぶ。			
授業内容	回	項目	内 容	
	1 5 5	(内分泌・代謝) 症状の観察と看護	1. 糖尿病とは 2. 糖尿病の分類・症状・合併症 3. 生活指導について	
		検査・治療時の看護	1. 食事療法 2. 運動療法 3. 薬物療法	
		疾患をもつ患者の看護	1. 事例展開 (糖尿病～セルフコントロール)	
	6 5 10	(腎・泌尿) 症状の観察と看護	1. 排尿障害・血尿 2. 体重増加・尿毒症 3. 感染	
		検査・治療時の看護	1. 血液透析 2. 腹膜透析・腎移植	
	11 5 15	(女性生殖) 症状の観察と看護	1. 出血・帯下 2. 疼痛 3. 掻痒感 4. 自律神経症状	
		検査・治療時の看護	1. 外来・病棟における看護 2. 外診・内診時の看護 3. ホルモン療法	
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 内分泌・代謝 第15版 (医学書院)			
参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 腎・泌尿器 第15版 (医学書院)			
	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 女性生殖器 第15版 (医学書院)			
評価方法	筆記試験			

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期
専門分野Ⅱ	成人看護学Ⅳ(終末期看護)	1(30)	2年	後期
担当教員	小西 由紀恵、船津 孝子	実務経験	看護師として病院勤務経験あり。	
授業形態	講義 演習			
目的	人間が存在し生きるという過程を、患者や家族のQOLという視点からとらえ、死と向き合っている患者や家族が成し遂げる過程を支援する看護を学ぶ。			
目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間の生と死について考えることができる。</li> <li>2. 全人的苦痛、家族援助について学び、その看護を理解する。</li> <li>3. 死を迎えた対象の看護について学び、実践方法を習得する。</li> <li>4. 基礎的な看とりの看護技術を習得する。</li> <li>5. 自ら死生観について考えることができる。</li> </ol>			
授業内容	回	項目	内 容	
	1 ┆ 2	人生の最期を支える看護の基礎	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療の現状</li> <li>2. 人生の最期の時を過ごしている人の理解 <ul style="list-style-type: none"> <li>・人間にとっての死</li> <li>・全人的苦痛</li> </ul> </li> <li>3. 人生の最期の時を支える看護 <ul style="list-style-type: none"> <li>・看護の目的</li> <li>・援助者の態度</li> <li>・人生の最期の時を支える看護師の役割、機能</li> </ul> </li> </ol>	
	3 ┆ 5	緩和ケアの現状	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 緩和ケア病棟</li> <li>2. 緩和ケアの現状とチーム医療</li> <li>3. 倫理的課題</li> <li>4. 意思決定支援</li> <li>5. 全人的苦痛へのアプローチ</li> </ol>	
	6 ┆ 8	緩和ケアにおける看護介入	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 身体的ケア</li> <li>2. 精神的ケア</li> <li>3. 社会的ケア</li> <li>4. スピリチュアルケア</li> <li>5. 代替・補完療法</li> </ol>	
	9	看取りの看護技術	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 臨終とは <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 臨終時の身体的特徴</li> <li>2) 臨終時の援助</li> </ol> </li> <li>2. 死とは <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 死の3兆候</li> <li>2) 死による身体的特徴</li> <li>3) 死亡時の援助</li> </ol> </li> </ol>	
	10 ・ 11	家族看護	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 家族ケア</li> <li>2. 悲嘆の種類</li> <li>3. 遺族ケア</li> <li>4. 遺族の歩み(特別講演)</li> </ol>	
	12 ┆ 15	終末期にある患者の看護	事例展開	
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学総論 第15版 小松浩子(医学書院)			
参考書	系統看護学講座 別巻 緩和ケア 第3版(医学書院)			
評価方法	筆記試験、課題レポート			

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期
専門分野Ⅱ	成人看護学Ⅴ(周手術期看護)	1(30)	2年	前期
担当教員	内藤 篤、森山 みなみ 山下 百合子	実務経験	病院勤務経験あり。	
授業形態	講義 演習			
目的	成人期にある対象の特徴と健康の保持・増進の重要性を理解し、健康レベルや状況に応じた看護を実践するための基礎的知識・技術・態度を養う。			
目標	手術療法や麻酔について理解すると共に、周手術期にある対象を総合的に理解し、適応促進に向けた看護の方法を学ぶ。			
授業内容	回	項目	内 容	
	1 5	外科看護の基礎	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 手術侵襲と生体の反応 <ul style="list-style-type: none"> <li>・手術侵襲の意味</li> <li>・侵襲に対する生体反応</li> <li>・サイトカインによる生体調整機構</li> </ul> </li> <li>2. 炎症 <ul style="list-style-type: none"> <li>・炎症細胞と化学伝達物質</li> <li>・急性炎症と慢性炎症</li> <li>・全身の炎症反応</li> <li>・炎症の治療</li> </ul> </li> <li>3. 腫瘍 <ul style="list-style-type: none"> <li>・腫瘍の定義、分類と発生原因</li> <li>・腫瘍の発育と進展様式</li> <li>・腫瘍の診断</li> <li>・腫瘍の治療</li> </ul> </li> <li>4. 麻酔法 <ul style="list-style-type: none"> <li>・麻酔とは</li> <li>・麻酔の種類</li> <li>・手術前の管理</li> <li>・手術中の管理</li> <li>・手術後の管理</li> <li>・全身麻酔</li> <li>・局所麻酔</li> </ul> </li> <li>5. 酸素療法と機械的人工換気 <ul style="list-style-type: none"> <li>・酸素療法</li> <li>・機械的人工換気</li> </ul> </li> <li>6. 体液、栄養管理 <ul style="list-style-type: none"> <li>・体液管理と輸液</li> <li>・栄養管理</li> </ul> </li> <li>7. 輸血療法 <ul style="list-style-type: none"> <li>・輸血実施手順と過誤防止策</li> <li>・輸血医療とは</li> </ul> </li> <li>8. 臓器移植 <ul style="list-style-type: none"> <li>・移植の分類</li> <li>・移植免疫</li> <li>・移植の臨床</li> </ul> </li> <li>9. 感染管理 <ul style="list-style-type: none"> <li>・外科的感染対策</li> <li>・院内感染制御</li> </ul> </li> </ol>	

	回	項 目	内 容
授業内容	6	周手術期看護の概論	1. 手術を受ける患者の状況 2. チーム医療と看護師の役割 3. インフォームドコンセント 4. 周手術期における安全管理
	7 ・ 8	救急看護の基礎	1. 救急処置法の実際 ・救急処置の範囲と対象 ・救急処置法の実際
	9	手術前の患者の看護	1. 手術前の患者のアセスメントと看護目標 2. 手術前の患者の看護
	10	手術中の患者の看護	1. 手術中の看護の要点 2. 手術室における看護の展開 3. 手術室の環境管理
	11 ・ 12	手術後の患者の看護	1. 手術後の回復を促進するための看護 2. 術後合併症予防と発症時の対応 3. 創傷治療の促進 4. 自己管理に向けた援助
	13	手術を受ける高齢者・小児の看護	1. 高齢者の周手術期の看護 2. 小児の周手術期の看護
		重症集中治療を受ける患者の看護	1. 重症集中治療・看護の概念と役割 2. 重症集中治療における看護の実際 3. ICUの管理・運営
		外科看護をとりまく法的環境	1. 法律上の基礎知識 2. 医療事故と看護業務 3. 看護と患者中心の医療 4. 死の医学
	14 ・ 15	手術を受ける患者の看護	1. 事例展開（胃癌）
	教科書 参考書	系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 第11版（医学書院）	
評価方法	筆記試験		

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期
専門分野Ⅱ	成人看護学実習Ⅰ(急性期・回復期)	2(90)	2・3年	前・後期
担当教員	田中 朱美	実務経験	総合病院にて実務経験あり。	
授業形態	臨床実習			
目的	成人期にある対象の特徴と健康上の問題をとらえ、生命の危機的状況にある対象・回復期にある対象を理解し、健康の回復・増進・自立への援助ができる。			
目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生命の危機的状況にある対象の身体的・精神的・社会的問題が理解できる。</li> <li>2. 対象がよりよい状態で治療が受けられ、生命の維持・回復、術後合併症のための援助ができる。</li> <li>3. 早期離床に向けた日常生活の援助ができる。</li> <li>4. 回復期の経過をたどる対象の身体的・精神的・社会的問題が理解でき、援助できる。</li> <li>5. 社会復帰に向けての援助ができる。</li> </ol>			
内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 : 1) 生命の危機的状況にある対象の身体的・精神的・社会的問題が理解できる。 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 疾患の発生のメカニズムと具体的な症状</li> <li>(2) 手術・麻酔による生体反応(侵襲)</li> <li>(3) 術後のボディイメージ・身体機能の変化の理解</li> <li>(4) 危機状況にある対象及び家族の心理状況</li> <li>(5) 疾患・手術・治療に対する受け止め方</li> <li>(6) 術前の検査及び処置の影響</li> <li>(7) 入院・手術による日常生活の変化</li> <li>(8) 術後予測される問題</li> </ol> </li> <li>2 : 1) 術前・治療前の心身の状況を整えるための援助ができる。 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 不安の緩和の援助の必要性</li> <li>(2) 不安の原因追求と援助</li> <li>(3) 術前・治療前の検査・処置に対する援助</li> <li>(4) 術後合併症予防の為に術前オリエンテーション・術前訓練の指導</li> <li>(5) 術前・治療前の身体準備</li> <li>(6) 手術室への移送と申し送りの見学</li> </ol> </li> <li>2) 手術中の患者の安全・安楽な看護について学ぶ。</li> <li>3) 術後・治療後の観察及び援助ができる。 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 環境整備と術後ベッドの作成</li> <li>(2) 一般状態の観察・管理と報告</li> <li>(3) 術後合併症予防のための援助</li> </ol> </li> <li>3 : 1) 術後・治療後の回復促進への援助ができる。 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 術後・治療後の苦痛を緩和するための援助</li> <li>(2) 基本的ニーズの充足への援助</li> <li>(3) 早期離床の意義と目的の理解</li> <li>(4) 対象に応じた離床の援助</li> <li>(5) 回復意欲への動機づけ</li> <li>(6) 回復過程に応じた日常生活拡大への援助</li> <li>(7) 対象・家族に対する不安の援助</li> </ol> </li> <li>4 : 1) 対象の身体的・精神的・社会的問題が理解でき、援助できる。 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 疾病の回復状態</li> <li>(2) 機能障害の原因・部位・程度</li> <li>(3) 機能障害によるADLの影響と評価</li> <li>(4) 対象及び家族の機能障害の受容過程</li> <li>(5) ADL自立を障害している因子と自立への援助</li> <li>(6) 機能障害の退院後の生活への援助</li> </ol> </li> <li>2) 対象を取り巻く家族に関心を寄せて、及ぼす影響を理解できる。</li> <li>5 : 1) 社会生活適応に向けての援助ができる。 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 退院後の生活の情報収集</li> <li>(2) 社会資源の提供</li> <li>(3) 保健・医療・福祉チームとの連携調整</li> <li>(4) 対象・家族への生活指導</li> </ol> </li> </ol>			
評価方法	学習状況、実習目標達成度、出席状況、実習態度等による総合評価 (評価表あり)			

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期
専門分野Ⅱ	成人看護学実習Ⅱ(慢性期)	2(90)	2・3年	前・後期
担当教員	増原 清子	実務経験	大学病院にて実務経験あり。	
授業形態	臨床実習			
目的	成人期にある対象の特徴と健康上の問題をとらえ、慢性期にある対象を理解し、セルフケア行動の維持・向上を図り、予防・自立に向けての援助ができる。			
目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 慢性期にある対象の身体的・精神的・社会的問題が理解できる</li> <li>2. 疾病をコントロールし、悪化させないための援助ができる。</li> <li>3. 社会復帰に向けセルフケアの確立をめざした援助ができる。</li> </ol>			
内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1：1) 患者の身体的・精神的・社会的問題が理解できる。 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 病態・症状の理解(疾病の発病・経過・現在の病状・予後)</li> <li>(2) 長期療養に伴う患者の疾病の受容過程</li> <li>(3) 患者と家族の疾病に対する認識</li> <li>(4) 症状・障害が及ぼす日常生活への影響</li> <li>(5) 回復への期待</li> </ol> </li> <li>2) 患者を取り巻く家族に関心を寄せて、及ぼす影響を理解できる。</li> <li>2：1) 疾病のコントロールへの援助ができる。 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 症状緩和への援助</li> <li>(2) 長期療養に伴う苦痛の緩和</li> <li>(3) 検査・治療に伴う援助及び指導</li> <li>(4) 患者及び家族への精神的援助</li> </ol> </li> <li>3：1) 生活の自立への援助ができる。 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) セルフケア行動の維持と向上に向けた援助</li> <li>(2) 闘病意欲維持・患者のQOLに向けた援助</li> <li>(3) 障害の程度に応じた日常生活への援助</li> <li>(4) 生活習慣の見直しと修正に向けた援助</li> <li>(5) 自己管理のための家族への日常生活指導</li> </ol> </li> <li>2) 社会復帰への準備と支援ができる。 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 患者に応じた生活指導ができる</li> <li>(2) 疾病・生活がコントロールできるための家族への協力・調整</li> <li>(3) 社会資源の提供</li> <li>(4) 保健・医療・福祉チームとの連絡・調整</li> </ol> </li> </ol>			
評価方法	学習状況、実習目標達成度、出席状況、実習態度等による総合評価 (評価表あり)			

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期
専門分野Ⅱ	成人看護学実習Ⅲ(終末期)	2(90)	2・3年	前・後期
担当教員	船津 孝子	実務経験	総合病院での実務経験あり。	
授業形態	臨床実習			
目的	成人期にある対象の特徴と健康上の問題をとらえ、終末期にある対象を理解し、その人らしく人生を全うできるよう、死に直面している対象とその家族に対して身体的・心理的な苦痛緩和のための援助ができる。			
目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 終末期にある対象の身体的・精神的・社会的・霊的(スピリチュアル)問題が理解できる。</li> <li>2. QOLの維持向上を考え、その人らしい生き方への配慮をし、援助ができる。</li> <li>3. 身体的・精神的・社会的・霊的(スピリチュアル)苦痛に対し、安楽への援助ができる。</li> <li>4. 家族への援助ができる。</li> <li>5. 生命の尊厳・自己の死生観を深めることができる。</li> </ol>			
内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 : 1) 対象の身体的・精神的・社会的問題が理解できる。 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 生体機能の変化の原因と病態</li> <li>(2) 身体的・精神的症状とそれに伴う苦痛</li> <li>(3) 生体機能の変化に対する対象家族の受け止め方</li> <li>(4) QOLの視点から基本的ニーズの充足状態</li> </ol> </li> <li>2) 対象を取り巻く家族に関心を寄せて、及ぼす影響を理解できる。</li> <li>2 : 1) QOLの維持、向上に向けて援助ができる。 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 対象のニーズに対する援助</li> <li>(2) 日常生活への援助</li> <li>(3) 死の受容過程に応じた対象・家族への援助</li> <li>(4) 告知・未告知への支援のあり方</li> </ol> </li> <li>3 : 1) 安楽への援助 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 悪化防止・二次的障害予防への援助</li> <li>(2) ペインコントロールに対する援助</li> <li>(3) 症状や状態に応じた援助</li> <li>(4) 精神的苦痛への援助</li> </ol> </li> <li>2) 危篤時の援助方法を学ぶ</li> <li>4 : 1) 家族への調整と支援。 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 家族への苦痛を配慮したコミュニケーション技術</li> <li>(2) 家族の看護活動への働きかけ</li> </ol> </li> <li>5 : 1) 生命の尊厳について考える。 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) QOLについて</li> <li>(2) 倫理について</li> <li>(3) 対象の意思、家族の意思</li> <li>(4) インフォームドコンセントについて</li> </ol> </li> <li>2) 死生観について深める。</li> </ol>			
評価方法	学習状況、実習目標達成度、出席状況、実習態度等による総合評価 (評価表あり)			

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期
専門分野Ⅱ	老年看護学Ⅱ (疾患別・症状別看護)	2(45)	2年	前期 後期
担当教員	荒木 さおり、前川 紋子 三宅 弘枝	実務経験	看護師として病院勤務経験あり。	
授業形態	講義 演習			
目的	老年期にある対象の特徴をふまえて、老年期に罹患しやすい疾病の看護について学ぶ			
目標	老年期にある健康障害の特徴、診断過程における看護の基礎について学ぶ			
授業内容	回	項目	内 容	
	1 ～ 4	老年期にある人の健康障害の特徴	1. 老年期に見られる疾患 1) 呼吸器系 (COPD) 2) 心・血管系 (心不全・不整脈) 3) 神経系 (頸椎症・脳梗塞・認知症・硬膜下出血) 4) 精神・心理 (うつ) 5) 消化器 (腸炎・腫瘍) 6) 腎泌尿器 (前立腺肥大) 7) 内分泌・代謝 (骨粗鬆症)	
	5	健康増進プログラム	1. 生活習慣病予防のためのプログラム 2. 転倒予防のためのプログラム 3. 認知症予防のためのプログラム	
	6	高齢者の総合評価	1. 高齢者の総合機能評価の使い方 2. 高齢者の生活環境のアセスメントと調整方法 3. 高齢者のケアマネジメント	
	7 ～ 10	老年期にある人の健康障害に対する診断・治療過程における看護	1. 診断過程における看護 2. 入院を必要とする高齢者の看護 3. 退院時の看護と継続看護 4. 薬物治療を受ける老年期にある人とその家族への援助 5. 手術療法を受ける老年期にある人とその家族への援助	
	11 ～ 18	健康障害のある高齢者の治療・療養の場における看護の実践	1. 慢性疾患をもち病院に入院している高齢者の看護 (呼吸器疾患のある患者の看護) 2. 直腸癌の手術を受ける高齢者の看護 (ストーマ造設した患者の看護) 3. 生命の危機にある高齢者の看護 4. 回復期にある高齢者の看護 (人工骨頭置換術を受けたリハビリテーション看護)	
	19 ・ 20	介護を必要とする老年期にある人の看護	1. 認知症の看護	
	21 ・ 22	終末期にある高齢者の看護	1. 高齢者の終末期の特徴 2. 高齢者の死亡場所の変化 3. 病院での看取り 4. 施設における看取り 5. 在宅における看取り	
	23	テスト		
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 第9版 (医学書院)			
参考書	ナーシンググラフィカ 老年看護学 高齢者看護の実践 第4版 メディカ出版			
評価方法	筆記試験、レポート			



分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期
専門分野Ⅱ	老年看護学実習Ⅰ	2(90)	2年	前期
担当教員	三宅 弘枝	実務経験	大学病院にて実務経験あり。	
授業形態	臨床実習			
目的	加齢による身体的・心理的・社会的変化をふまえ、老年期にある対象の日常生活援助ができる。			
目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 老年期にある人の特徴を理解できる。</li> <li>2. 様々な健康レベルにある高齢者の生活の場を理解できる。</li> <li>3. 対象に応じた日常生活援助について理解できる。</li> <li>4. 保健・医療・福祉チームの一員としての看護師の役割が理解できる。</li> </ol>			
内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 : <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 対象及びその家族とコミュニケーションを図り、情報収集できる。</li> <li>2) 身体の特徴を理解できる。               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 身体諸器官の機能減退</li> </ol> </li> <li>3) 心理・社会面の特徴を理解できる。               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 環境がその人に与える影響</li> <li>(2) 役割喪失による無気力感や孤独感、鬱的傾向、記憶力の低下、見当識障害、経済力の低下、社会や家庭での孤独感</li> </ol> </li> </ol> </li> <li>2 : <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 高齢者の生活、生活の場について理解できる。</li> <li>2) 各施設・病院での生活の場の違いを理解できる。</li> <li>3) 高齢者の健康レベルによって、生活の場がちがうことを理解できる。</li> </ol> </li> <li>3 : <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 高齢者の日常生活への援助方法を見学する。               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 障害の程度に応じた日常生活援助方法（食事、排泄、睡眠、清潔、衣服、私物管理、服薬管理）</li> <li>(2) 日常生活の拡大と自立への援助</li> <li>(3) 家族、キーパーソンへの働きかけ</li> </ol> </li> <li>2) 高齢者の状態をアセスメントし、必要な援助の方法を考えることができる。</li> <li>3) 高齢者に必要な日常生活援助を実施し、振り返ることができる。</li> </ol> </li> <li>4 : <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 各施設・病院で、保健・医療・福祉チームのカンファレンスに参加し、看護師の役割について考えることができる。</li> </ol> </li> </ol>			
評価方法	学習状況、実習目標達成度、出席状況、実習態度等による総合評価 (評価表あり)			

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期
専門分野Ⅱ	老年看護学実習Ⅱ	2(90)	2・3年	前・後期
担当教員	三宅 弘枝	実務経験	大学病院にて実務経験あり。	
授業形態	臨床実習			
目的	老年期にある対象の特徴をふまえ、健康レベルに応じた看護過程を展開できる。			
目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 老年期にある対象及びその家族とコミュニケーションを図り、情報収集できる。</li> <li>2. 老年期にある対象の健康障害による身体的・心理的・社会的な影響を理解できる。</li> <li>3. 検査・治療・処置が老年期にある対象に及ぼす影響を理解し、看護上の問題をアセスメントできる。</li> <li>4. 残存機能を生かした自立や機能低下防止を考慮した看護計画立案・看護が実施・評価できる。</li> <li>5. 社会復帰に向け、対象・家族への健康教育及び社会資源の活用について理解できる。</li> </ol>			
内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 : 1) 対象の生活史・生活背景・生活習慣を理解することができる。</li> <li>2) 対象の生きてきた人生の価値を認め、生きがいや死生観を理解することができる。</li> <li>2 : 1) 人間像・病像・生活像から全体像をとらえることができる。</li> <li>3 : 1) 検査・治療・処置に対する説明と反応についての把握ができる。</li> <li>2) 検査・治療・処置前後の身体的状態と変化をとらえることができる。</li> <li>3) 看護上の問題をアセスメントできる。</li> <li>4 : 1) 自立と機能低下防止を目指した日常生活援助計画が立案できる。</li> <li>2) 安全・安楽・自立を考慮した援助が実施できる。</li> <li>3) 実施した看護の評価・修正ができる。</li> <li>5 : 1) 現在の状態と退院後の生活における問題点の確認ができる。</li> <li>2) 病棟カンファレンスに参加し、継続看護の連携について理解できる。</li> <li>3) 患者・家族の理解度に合わせて、退院指導ができる。</li> <li>4) 活用できる社会資源について説明できる。</li> </ol>			
評価方法	学習状況、実習目標達成度、出席状況、実習態度等による総合評価 (評価表あり)			

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期
専門分野Ⅱ	小児看護学Ⅰ (経過別・症状別看護)	1(30)	2年	前期
担当教員	妹尾 忍、門城 すみ子 佐藤 基	実務経験	看護師として病院勤務経験あり。	
授業形態	講義 演習			
目的	病児とその家族について理解し、健全な成長・発達を促すためのアセスメントと援助について学ぶ。 小児における検査・処置についての概要と必要な看護について学ぶ。			
目標	疾病や傷害に対して子どもと家族が示す反応について、健康問題や発達段階から理解する。 健康問題を持つ小児と家族の看護について、経過別・症状別の特徴をふまえ理解する。 健康障害を持つ小児の生活と家族の看護について理解する。			
授業内容	回	項目	内 容	
	1 ・ 2	病児と家族の理解	1. 病気をもつ小児の反応と影響 1) 病気にたいする子どもの理解 2) 病気が子どもの生活・成長発達に及ぼす影響 2. 病児をもつ家族の理解 1) 病気にたいする子どもの理解、子どもの病気に対する親の理解と受容 2) 子どもの病気が家族に及ぼす影響	
	3 ・ 5	小児の入院生活と看護	1. 入院中の子どもへの生活援助 (睡眠、食事、清潔・衣服、遊び、学習)	
	6 ・ 12	小児の健康障害と看護	1. 小児における主な症状を示す小児の看護 1) 痛み 2) 発熱 3) 呼吸困難 4) けいれん 5) 嘔吐 6) 下痢 7) 脱水 8) 浮腫 9) 意識障害 2. 小児における経過別看護 1) 急性期をもつ小児の特徴と看護 2) 慢性疾患を持つ小児の特徴とその看護 3) 予後不良(ターミナル期・死)にある小児と死後の看護 4) 低出生体重児と家族の看護	
	13 ・ 15	小児看護に必要な看護技術	1. 小児における検査・処置 1) 身体計測 2) バイタルサイン測定 3) 予薬・輸液の管理 4) 採血 5) 採尿・蓄尿 6) 抑制 7) プレパレーション	
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ	小児臨床看護各論	第14版	奈良間美保(医学書院)
参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ (医学書院)	小児看護学概論 小児臨床看護総論	第14版	奈良間美保
評価方法	筆記試験			

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期
専門分野Ⅱ	小児看護学Ⅱ(系統別看護)	2(45)	2年	前期 後期
担当教員	田中 雄二、松本 光海 木原 公恵	実務経験	病院にて勤務経験あり。	
授業形態	講義 演習			
目的	小児が健康を障害されていることの意味と、その援助方法について学ぶ。 小児に特徴的な疾患をとりあげ、事例の展開について学ぶ。			
目標	小児における系統別疾患の看護について理解する。 事例展開を通して、小児における特徴的な疾患の看護について、小児の成長発達の特徴をふまえた看護を理解する。			
授業内容	1 5	小児の健康障害	1. 呼吸器疾患 1) クループ症候群, 急性気管支炎, 細気管支炎, 肺炎, など 2. 循環器疾患 1) 心室中隔欠損症, ファロー四徴症, 川崎病, 突然死, など 3. 消化器疾患 1) 肥厚性幽門狭窄症, 腸重積症, 急性虫垂炎, 臍ヘルニア, 胆道閉鎖症, ウイルス肝炎, 急性胃腸炎, など 4. 腎・泌尿・生殖器疾患 1) 急性腎炎症候群, ネフローゼ症候群, 尿路感染症, など 5. 神経疾患 1) てんかん, 熱性けいれん, 脳性麻痺, 無菌性髄膜炎, 急性脳症, ギラン・バレー症候群, 筋ジストロフィー症, など	
	6 11	小児の健康障害と看護	1. 健康段階に応じた看護 1) 急性期にある患児の看護; 症状の観察・苦痛の緩和 2) 慢性期にある患児の看護; 疾患の受容過程, 自己管理 3) 障害をもった児の看護; 障害受容への援助 4) 終末期にある患児の看護; 苦痛に対する看護, 小児の生命・死についての捉え方, 死にゆく子どもの家族とその反応 2. 疾患の理解と看護 1) 消化器疾患; 肥厚性幽門狭窄症, 腸重積, 鎖肛 2) 呼吸器疾患; 気管支喘息 3) 循環器疾患; 川崎病 4) 腎・泌尿器疾患; ネフローゼ症候群 5) 脳・神経系; けいれん 6) アレルギー; アトピー性皮膚炎 7) 内分泌; 糖尿病	
	12 21	事例展開	1. ネフローゼ症候群に罹患した小児の看護 2. 肺炎に罹患した小児の看護	
	22	まとめ	1. 小児臨床看護のまとめ	
	23	テスト		
教科書 参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論 第14版 奈良間美保(医学書院)			
評価方法	筆記試験、レポート			

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期
専門分野Ⅱ	小児看護学実習	2(90)	2・3年	前・後期
担当教員	木原 公恵	実務経験	総合病院、訪問看護ステーションにて実務経験あり。	
授業形態	臨床実習			
目的	小児期にある対象とその家族を理解し、成長・発達段階・健康段階に応じた看護が実践できる基礎的能力を養う。			
目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>小児各期の成長・発達の特徴について理解できる。</li> <li>成長・発達段階に応じた日常生活の援助ができる。</li> <li>小児特有の疾患、心身障害及び症状を理解し、看護が実践できる。</li> <li>健康障害や入院が小児と家族に及ぼす影響を理解し、援助の方法を学ぶ。</li> <li>健康障害をもつ小児の成長・発達段階にあった保健指導の必要性が理解できる。</li> <li>小児各期の対象に応じた小児看護の基礎的技術を習得する。</li> <li>小児の安全を守るための看護師の責任を自覚し、事故防止に努めることができる。</li> </ol>			
内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 保育の実際を見学することにより、対象の年齢別成長・発達段階の特徴と接し方が理解できる。</li> <li>2) 1) 基本的生活習慣と保育について理解できる。 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 食事(食習慣のしつけ、食事摂取の援助、おやつ、離乳食、授乳など)</li> <li>(2) 排泄(排尿、排便行動の発達と自立への援助、おむつ交換)</li> <li>(3) 睡眠(睡眠時間、習慣、午睡、休息)</li> <li>(4) 清潔(手洗い、歯磨き、うがいの習慣)</li> <li>(5) 衣生活(衣類、寝具の選択と整理衣類)</li> <li>(6) 着脱行動の発達としつけ</li> <li>(7) 環境(身の回りの整頓、室温湿度の調整、換気、安全を守る施設構造と設備)</li> </ol> </li> <li>2) 遊びと社会性への援助(発達段階・病状にあった遊び、お楽しみ会の企画、実施)について理解できる。</li> <li>3) 1) 対象の健康障害の理解ができる。 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 疾患、心身障害の病態生理、治療方針</li> <li>(2) 治療の内容</li> <li>(3) 小児特有の症状</li> <li>(4) 健康障害の段階、程度</li> <li>(5) 基本的欲求の充足度、基本的生活習慣の自立度、情報をアセスメントし、看護問題と計画の立案ができる。</li> </ol> </li> <li>2) 看護計画の実施ができる。 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 事故・感染防止に配慮した援助</li> <li>(2) 対象の阻害された成長・発達への援助</li> <li>(3) 運動・行動制限の苦痛に対する遊びを考慮した援助</li> <li>(4) 対象の状態、症状に合わせた健康回復への援助</li> <li>(5) 対象・家族の治療への参加を促す援助</li> <li>(6) 対象の退院後の生活、ケアの継続に対する家族への指導</li> </ol> </li> <li>3) 実施した看護を評価し、計画、目標を修正ができる。</li> <li>4) 1) 対象の生育歴、家庭環境をとらえることができる。</li> <li>2) 対象の入院による家族の社会的問題について理解できる。</li> <li>3) 対象の家族の不安・ストレス・疲労に対する援助について理解できる。</li> <li>4) 対象の成長発達への影響が理解できる。</li> <li>5) 健康障害についての対象・家族の理解及び精神的影響が理解できる。</li> <li>5) 1) 小児に関わる保健医療チームの特徴が理解できる。</li> <li>2) 小児自らの健康障害に対する理解度をとらえることができる。</li> <li>3) 退院時の継続看護の意義が理解できる。</li> <li>6) 1) 小児のバイタルサインの測定ができる。</li> <li>2) 小児の身体測定ができる。</li> <li>3) 小児の診察の介助ができる。</li> <li>4) 小児の治療・検査時の介助ができる。</li> <li>5) 小児の持続点滴管理の観察と方法ができる。</li> <li>6) 発達段階に応じたコミュニケーションができる。</li> <li>7) 1) 小児の起こりやすい事故の理解と事故防止について理解できる。</li> <li>2) 院内感染の予防について理解できる。</li> <li>3) 小児が衛生習慣を維持できる援助及び安全教育について理解できる。</li> <li>4) 感染防止のための病棟の構造・設備の理解について理解できる。</li> </ol>			
評価方法	学習状況、実習目標達成度、出席状況、実習態度等による総合評価 (評価表あり)			

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期
専門分野Ⅱ	母性看護学Ⅰ (妊娠・分娩・産褥の経過)	1(30)	2年	前期
担当教員	勝部 真美枝	実務経験	助産師として病院勤務経験あり。	
授業形態	講義 演習			
目的	周産期の母子の生理的経過を学び、母子相互関係の重要性を理解する。			
目標	正常な妊娠・分娩・産褥・新生児期の生理的変化や経過が理解できる。 妊娠・分娩・産褥・新生児の各経過が母子及び家族に及ぼす影響が理解できる。			
授業内容	回	項目	内容	
	1 ～ 4	妊娠期の生理	1. 妊娠期の身体的特性 (妊娠の生理、胎児の発育とその生理、母体の生理的変化) 2. 妊娠期の心理・社会的特性 (妊婦の心理、妊婦と家族及び社会) 3. 妊婦と胎児のアセスメント (妊娠とその診断、妊娠期の検査と目的、胎児の発育と健康状態の診断、妊婦と胎児の経過と診断・アセスメント)	
	5 ～ 8	分娩期の生理	1. 分娩の要素 (分娩とは、分娩の3要素、胎児と子宮および事版との関係、分娩の機序) 2. 分娩の経過 (分娩の進行と産婦の身体的変化、産痛、胎児に及ぼす影響、産婦の心理・社会的変化) 3. 産婦・胎児、家族のアセスメント (産婦と胎児のアセスメント。産婦と家族の心理社会面のアセスメント、産婦・家族における看護上の問題の明確化)	
	9 ～ 12	産褥期の生理	1. 産褥経過 (産褥期の身体的変化、心理・社会的変化) 2. 産婦のアセスメント (産褥経過の診断、褥婦の健康状態のアセスメント)	
	13 ～ 15	新生児期の生理	1. 新生児の生理 (新生児とは、新生児の機能) 2. 新生児のアセスメント (新生児の診断、健康状態のアセスメント)	
教科書 参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 第13版 (医学書院)			
評価方法	筆記試験、授業への参加度			

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期
専門分野Ⅱ	母性看護学Ⅱ (妊娠・分娩・産褥期の看護)	2(45)	2年	前期 後期
担当教員	比良 静代	実務経験	助産師として病院勤務経験あり。	
授業形態	講義 演習			
目的	正常な妊婦褥婦・新生児に適した看護を理解する			
目標	妊・産・褥婦・新生児に適切な看護活動について学び、事例を展開する。また、妊娠・分娩・産褥・新生児のハイリスクな状況の人の看護を知る。			
授業内容	回	項目	内 容	
	1 ～ 3	妊婦の看護	1. 妊婦の保健相談 ・妊娠中の食生活 ・排泄、清潔 ・衣生活 ・活動と休息 ・勤労 ・性生活 ・マイナートラブル 2. 分娩準備教育 3. 妊婦と家族の看護	
	4 ～ 6	産婦の看護	1. 安全・安楽な分娩への援助 2. 産痛緩和のためのケア 3. 基本的ニードの充足 (水分・栄養・排泄・清潔・睡眠・休息) 4. 産婦と家族の看護	
	7 ～ 9	褥婦の看護	1. 退行性変化への看護 ・休息と活動 ・栄養 ・排泄、清潔 2. 進行性変化への看護 ・乳房ケア 3. 心理的変化への看護 4. 育児技術にかかわる看護 ・授乳 ・児の清潔 ・児の健康管理 5. 褥婦と家族の看護	
	10 ～ 12	新生児の看護	1. 出生直後の看護 2. 退院までの経過観察 3. 身体の清潔 4. 栄養	
	13 ～ 15	ハイリスクな状況の看護	1. 妊娠・分娩・産褥・新生児の異常時の看護	
	16 ～ 19	母性看護技術	1. 母性看護技術演習・技術テスト 腹囲・子宮底測定、レオポルド触診法、分娩監視装置のつけ方、産痛緩和法、児心音の聴取、抱き方・寝かせ方、おむつのあて方、服の着脱、沐浴、授乳、排気法、新生児の諸計測、保育器の使用法、バイタルサイン測定法、乳房の手当	
	20 ～ 23	看護過程の展開	1. 看護の実際(正常の経過をたどる褥婦と新生児の事例にて展開) ・アセスメントから看護活動まで ・スタンダードケアプランの作成	
教科書 参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 第13版(医学書院)			
評価方法	筆記試験、レポート、技術テスト			

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期
専門分野Ⅱ	母性看護学実習	2(90)	2・3年	前・後期
担当教員	木原 公恵	実務経験	総合病院、訪問看護ステーションにて実務経験あり。	
授業形態	臨床実習			
目的	人間の性及び母性看護の対象の特徴を理解し、対象に応じた看護が実践できる基礎的能力を養う。			
目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 妊娠・分娩・産褥および新生児期にある対象者とその家族の身体的・心理的・社会的変化について理解し、健康問題についてアセスメントできる。</li> <li>2. 対象者に必要な看護計画を立案し、援助を行うことできる。</li> <li>3. 対象者及び家族に必要な保健指導の必要性とその方法が理解できる。</li> <li>4. 母性看護における継続看護の重要性を認識し、多職種間の連携・協同、社会資源の活用方法について理解できる。</li> <li>5. 母性・父性認識を高揚させ、生命の尊厳に対する価値観を養う。</li> </ol>			
内容	<p>妊娠期</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 妊娠週数に応じた胎児の発育、母体の変化</li> <li>2. 健診の目的・方法</li> <li>3. 健診の実際</li> <li>4. 妊娠各期における日常生活指導</li> <li>5. 母子健康手帳交付の意義、活用方法、記入、取り扱い</li> <li>6. 母子保健法と制度の理解</li> <li>7. 母親学級の目的・実施内容</li> </ol> <p>分娩期</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 分娩経過の観察とアセスメント</li> <li>2. 日常生活の援助</li> <li>3. 産婦の苦痛緩和</li> </ol> <p>産褥期</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 身体的側面</li> <li>2. 精神的側面</li> <li>3. 社会的側面</li> <li>4. セルフケアを高める援助</li> </ol> <p>新生児期</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 出生直後の取り扱い</li> <li>2. 新生児（子宮外適応現象）の観察・援助</li> <li>3. 日常生活の援助</li> <li>4. 愛着行動の観察</li> <li>5. 新生児に行われる検査・与薬・診察</li> </ol> <p>看護過程の展開</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 受け持ち褥婦の妊娠・分娩・産褥経過および心理・社会的背景から看護に必要な情報の整理</li> <li>2. 受け持ち新生児の出生時の状況、出生後の経過から看護に必要な情報の整理</li> <li>3. 整理した情報を解釈・分析し、看護上の問題に基づいた褥婦及び新生児の看護診断</li> <li>4. 看護診断の優先度に基づいた母子を対象とした看護日標立案</li> <li>5. 立案した目標に添った看護の実施</li> <li>6. 実施した看護の評価</li> </ol>			
評価方法	学習状況、実習目標達成度、出席状況、実習態度等による総合評価 (評価表あり)			



分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期
専門分野Ⅱ	精神看護学Ⅰ (患者—看護師関係)	1(30)	2年	前期
担当教員	石倉 清乃	実務経験	看護師として病院勤務経験あり。	
授業形態	講義 演習			
目的	精神看護の対象である人間の基盤に、こころのしくみと働きを理解し、すべてのライフサイクルにおいてこころのバランスを崩している人々や、精神障害者とその家族に対する看護を学ぶ。			
目標	こころの障害をもつ、患者とその家族への援助に必要とされる基礎的知識を学ぶ。 精神科看護において援助を必要とする対象に対して、看護者としての治療的関係を学ぶ。			
授業内容	回	項目	内 容	
	1 ・ 2	精神看護の対象	1. 精神看護の目的の理解 2. 精神看護の対象の理解 3. こころの健康 4. こころの健康と身体の関係	
	3 ・ 4	精神障がい者の理解	1. 精神障害者の理解と考え方 2. 精神医療の歴史と現状 3. 精神疾患のとらえかた 4. 精神保健福祉行政	
	5 ・ 7	患者—看護師関係の成り立ち	1. ケアの人間関係 2. コミュニケーション技術 1) セルフヘルプグループ、カウンセリング他 3. 患者—看護師関係の成り立ち 1) 人間関係を基盤とした看護理論 4. 患者—看護師関係でおこること 1) 拒絶・攻撃・転移・逆転移・操作	
	8 ・ 13	自己理解と他者理解	1. 患者—看護師関係のアセスメント 2. プロセスレコードの活用 3. プロセスレコードを用いたアセスメントの実際 4. 他者との対応における自己の傾向への気づき	
	14	リエゾン精神看護	1. リエゾン精神看護の目標とリエゾン精神看護師 2. リエゾン精神看護における技法 1) コンサルテーション	
	15	看護師のメンタルヘルス	1. 看護師のストレスマネジメント 2. 感情労働としての看護	
教科書	NiCE 精神看護学Ⅰ 精神保健・多職種をつながり 第2版 (南江堂) NiCE 精神看護学Ⅱ 臨床で活かすケア 第2版 (南江堂)			
参考書	精神症状のアセスメントとケアプラン 32の症状とエビデンス集 第1版 川野雅資編著 (メヂカルフレンド社)			
評価方法	筆記試験、課題レポート、プロセスレコードの取り組み			

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期	
専門分野Ⅱ	精神看護学Ⅱ (精神障害のある患者の看護)	2(45)	2年	前期 後期	
担当教員	可知 朋子、田中 朱美	実務経験	看護師として病院勤務経験あり。		
授業形態	講義 演習				
目的	精神看護の対象である人間の基盤に、こころのしくみと働きを理解し、すべてのライフサイクルにおいてこころのバランスを崩している人々や、精神障害者とその家族に対する看護を学ぶ。 対象との関わりを通して、常にこころの健康の保持・回復の援助ができる基礎的能力を養う。				
目標	精神看護の対象である人間を基盤に、すべてのライフサイクルにおいて、こころのバランスを崩している人々や、精神障害者とその家族に対する看護を学ぶ。 対象との関わりをとおして、常に心の健康の保持・増進・回復の援助ができる基礎的能力を養う。				
授業内容	回	項目	内 容		
	1 ・ 2	精神疾患患者の権利擁護	1. 入院患者の処遇 2. 行動制限 3. 精神医療審査会 4. 精神保健指定医		
	3 ・ 4	精神看護におけるリスクマネジメント	1. 病棟環境の整備 2. 自殺・自殺企図 3. 攻撃的行動 4. 危険物の管理 5. 急変時の対応 6. 転倒転落のリスク 7. 日常生活援助		
	5 ・ 6	精神症状のアセスメントと症状マネジメントにおける看護の役割	1. 症状に対する援助 2. 服薬管理 3. 心理教育		
	7	家族支援の重要性	1. 精神障がい者の家族の理解 2. 家族支援の必要性 3. 家族の感情表出		
	8 ・ 9	精神保健医療サービスの実際	1. 急性期対応 2. 長期在院者のケアと病棟管理 3. 地域生活支援		
	10	主な精神科治療と看護	1. 精神療法と看護 2. 薬物療法と看護 3. 精神科看護における医療チーム 4. リハビリテーション療法における看護		
	11 ・ 14	主な精神疾患の看護	1. 統合失調症 2. 双極性気分障害 3. うつ病 4. 神経性障害、ストレス関連性障害 5. パーソナリティ障害 6. てんかん		
	15	小児期における精神障害	1. 児童期に情動障害がみられるおもな障害 1) チック知的障害／自閉症などについての看護		
	16 ・ 22	統合失調症患者の看護過程	1. 統合失調症患者の看護過程の展開		
	23	テスト			
	教科書	NiCE 精神看護学Ⅰ 精神保健・多職種つながり 第2版 (南江堂) NiCE 精神看護学Ⅱ 臨床で活かすケア 第2版 (南江堂) 精神症状のアセスメントとケアプラン 32の症状とエビデンス集 第1版 川野雅資編著 (メヂカルフレンド社)			
	参考書				
評価方法	筆記試験 課題レポート				

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期
専門分野Ⅱ	精神看護学実習	2(90)	2・3年	前期・後期
担当教員	石倉 清乃	実務経験	総合病院にて実務経験あり。	
授業形態	臨床実習			
目的	精神に障害をもつ対象を理解し、対象との人間関係の成立を通して、対象個々の生活の場に応じた看護を行うため必要な基礎的能力を養う。			
目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神に障害のある対象を身体的・精神的・社会的側面から理解できる。</li> <li>2. 精神に障害のある対象の治療環境を理解できる。</li> <li>3. 精神に障害のある対象一看護師関係を発展させるための方法を学ぶ。</li> <li>4. 精神に障害のある対象の日常生活行動を観察し、対象に応じた日常生活の援助ができる。</li> <li>5. 精神に障害のある対象の看護上の問題を明確にし、対象に適した看護計画、実践、評価ができる基礎的能力を養う。</li> <li>6. 対象を取り巻く保健・医療・福祉を理解し、社会生活に向けての看護師の役割について考えることができる。</li> </ol>			
内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神に障害のある対象を身体的・精神的・社会的側面から理解できる。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 患者の心理的・社会的特性が理解できる <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 患者の背景が理解できる</li> <li>(2) 患者の生活行動を把握し、その行動の意味を考えることができる</li> <li>(3) 患者を全人的に理解でき、健康・不健康の部分があることを理解できる</li> <li>(4) 面会の状況、入院形態、患者と家族の連絡方法</li> <li>(5) 家族が患者をどのように受け入れているかわかる</li> <li>(6) 精神障害が日常生活に及ぼす影響を把握する</li> </ol> </li> <li>2) 患者の身体的側面の理解ができる <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 抗精神病薬の副作用について</li> <li>(2) 身体合併症について</li> </ol> </li> </ol> </li> <li>2. 精神に障害のある対象の治療環境を理解できる。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 患者の安全を守るための病棟の構造・管理の特徴、および配慮されている点について理解できる <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 病棟の構造上の特徴、鍵の取り扱い、病棟の開放、閉鎖、保護室、危険物の取り扱い、離院、自傷、他傷、自殺</li> <li>(2) 代理行為</li> </ol> </li> <li>2) 精神障がい者に対する看護が精神保健福祉法に則ったものであることが理解できる <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 行動制限</li> <li>(2) 行動制限における看護の役割</li> </ol> </li> <li>3) 入院患者の生活の場としての環境を理解する</li> <li>4) 精神医療における看護の役割・機能を理解する <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 精神医療における安全管理の特殊性を理解できる</li> <li>(2) 関係医療機関との連携、社会資源の活用の重要性について理解できる</li> <li>(3) 精神障害をめぐる社会問題や看護の展望を考えることができる</li> </ol> </li> </ol> </li> <li>3. 精神に障害のある対象一看護師関係を発展させるための方法を学ぶ。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 精神が障害された対象とのコミュニケーションの特徴を理解する</li> <li>2) 患者一看護師関係の発展過程を理解し、治療的関わり方の技法を学ぶ <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) プロセスレコードなどで患者との相互関係の発展を分析・評価する</li> <li>(2) 患者とのかかわりやその振り返りを通して、自己の感情や行動特性に気づくことができる</li> <li>(3) 自己の課題を明確にできる</li> <li>(4) 患者の対人関係の傾向を理解し、関わり方の工夫ができる</li> </ol> </li> </ol> </li> <li>4. 精神に障害のある対象の日常生活行動を観察し、対象に応じた日常生活の援助ができる。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 患者の日常行動の問題の把握ができる</li> <li>2) 患者に現れている症状を理解し、状態に応じた援助の方法を学ぶ</li> <li>3) 精神障がい者への看護が特殊なものだけでなく、対象のニーズに沿った日常生活援助を計画実施できる</li> </ol> </li> <li>5. 精神に障害のある対象の看護上の問題を明確にし、対象に適した看護計画、実践、評価ができる基礎的能力を養う。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 患者に現れている症状を理解し、状態に応じた援助の方法を学ぶ</li> <li>2) 患者が受けている治療の目的・内容を理解できる</li> <li>3) 日常生活能力をアセスメントし、必要な援助を計画し立案する</li> </ol> </li> <li>6. 対象を取り巻く保健・医療・福祉を理解し、社会生活に向けての看護師の役割について考えることができる。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 精神科領域における医療チームメンバーとその役割について理解する</li> <li>2) 医療チームの連携と看護の役割について理解する</li> <li>3) 精神障がい者を支える社会復帰施設の役割と機能について理解する <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 精神障がい者が地域で生活する上で共通している問題や個々によって異なる問題について考える</li> <li>(2) 社会復帰施設での活動内容について理解する</li> </ol> </li> <li>4) 精神保健福祉法、障害者総合支援法を始めとした精神障がい者の支援に必要な法律を理解する</li> </ol> </li> </ol>			
評価方法	学習状況、実習目標達成度、出席状況、実習態度等による総合評価 (評価表あり)			

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期
統合分野	在宅看護論の概論	1(30)	2年	前期
担当教員	兼折 要、加藤 典子 吉松 恵子、横川 隆子	実務経験	専門学校にて教授経験あり。	
授業形態	講義 演習			
目的	地域で生活しながら療養する人々とその家族を理解し、対象に応じた在宅での看護を行うために必要な基礎的知識・技術・態度を養う。			
目標	1. 在宅看護の特徴と在宅療養者およびその家族について理解する。 2. 地域包括ケアシステムにおける在宅看護の位置付けと看護の役割を理解する。			
授業内容	回	項目	内容	
	1 ・ 2	在宅看護の基盤	1. 在宅看護の理念と対象 ・在宅ケアを必要とする背景 ・在宅看護の目的と位置づけ ・在宅看護の機能と提供機関 ・在宅看護の基本的理念 ・在宅看護の対象の理解 ・在宅看護の基本倫理 2. 在宅看護の変遷 ・在宅看護の原点 ・我が国における在宅看護の始まり ・我が国における在宅看護の制度化	
	3 5 7	在宅看護を支えるしくみ	1. 在宅看護を支える制度 ・医療保険制度 ・介護保険制度 ・障がい者支援に関する制度 ・高齢者虐待防止に関する制度 2. 訪問看護の制度と機能 ・訪問看護の目的、機能、特徴 ・訪問看護の実施形態 ・訪問看護に関する制度 ・訪問看護のしくみ、質の保証 3. 地域包括ケアシステム ・地域包括システムについて ・地域包括ケアシステムづくり 地域包括ケアシステムの実際	
	8 5 15	在宅看護における支援の基本	1. ケアマネジメント ・在宅における社会資源 ・ケアマネジメントの変遷 ・ケアマネジメントの展開 ・チームケアと多職種連携 ・介護保険制度におけるケアマネジメント ・継続看護 ・退院支援 2. 在宅における家族支援 ・家族の定義、機能、発達段階 ・対象者としての家族 ・家族のアセスメント ・在宅看護における家族支援の実際 3. 在宅看護におけるリスクマネジメント ・リスクマネジメントの概念 ・在宅におけるアクシデントの特徴 ・在宅看護におけるリスクマネジメントの実際	
教科書 参考書	新体系看護学全書 在宅看護論 第5版(メヂカルフレンド社)			
評価方法	筆記試験(60%)、小テスト(20%)、グループワーク(20%)、授業等の態度で総合的に評価する(加藤典子担当分)			

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期
統合分野	在宅看護援助論Ⅰ (在宅生活を支える援助技術)	1(30)	2年	前期
担当教員	佐藤 直、増原 清子 田中 朱美、三宅 弘枝 勝部 美保子	実務経験	看護師として病院勤務経験あり。	
授業形態	講義 演習			
目的	在宅療養を継続するために必要な援助技術について理解できる。			
目標	1. 生活支援を必要とする療養者の看護について理解できる。 2. 医療処置を必要とする療養者の看護について理解できる。			
授業内容	回	項 目	内 容	
	1 5 7	生活支援を必要とする 療養者の看護	1. 食の援助 2. 排泄の援助 3. 清潔の援助 4. 移動・移乗の援助 5. 服薬の援助	
	8 5 15	医療処置を必要とする 療養者の看護	1. 在宅医療と社会制度 2. 薬物療法 3. 在宅酸素療法 4. 在宅人工呼吸法 5. 非侵襲的陽圧換気療法(NPPV) 6. 在宅経管栄養法・経腸栄養法 7. 在宅中心静脈栄養法 8. 膀胱留置カテーテル・ストーマ 9. 在宅褥瘡管理 10. 連続携行式腹膜透析	
教科書 参考書	新体系看護学全書 在宅看護論 第5版 (メヂカルフレンド社)			
評価方法	筆記試験			

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期
統合分野	在宅看護援助論Ⅱ (在宅看護活動)	2(45)	2年	後期
担当教員	吉岡 理枝、木原 公恵 田中 朱美、増原 清子 三宅 弘枝、横川 隆子 勝部 美保子	実務経験	看護師として病院勤務経験あり。	
授業形態	演習 講義			
目的	在宅で療養する対象者と家族について総合的にとらえ、必要な看護について理解できる。			
目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 在宅における生活支援の方法と技術を理解できる。</li> <li>2. 在宅における医療管理を必要とする人とその看護について理解できる。</li> <li>3. 事例から、対象に応じた必要な看護について理解できる。</li> </ol>			
授業内容	回	項目	内容	
	1 5 3	各期の在宅療養者の看護	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小児期の在宅療養者の看護</li> <li>2. 成人期の在宅療養者の看護</li> <li>3. 老年期の在宅療養者の看護</li> </ol>	
	4 5 12	事例に応じた必要な看護	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 脳卒中後遺症のある高齢者の看護</li> <li>2. 在宅酸素療法中の療養者の看護</li> <li>3. 在宅の高齢者認知症患者の看護</li> <li>4. 難病(ALS)による療養者</li> <li>5. 中途障害者となった療養者の看護</li> <li>6. 在宅での生活を希望する精神障がい者の看護</li> <li>7. 地域で療養する子供の看護</li> <li>8. 高次脳機能障害の療養者の看護</li> <li>9. CAPD療法を行っている療養者の看護</li> </ol>	
	13 5 22	事例検討(演習)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. G.W. 事例に応じた看護過程の展開 —エンド・オブ・ライフケアと看護—</li> </ol>	
	23	テスト		
教科書 参考書	新体系看護学全書 在宅看護論 第5版 (メヂカルフレンド社)			
評価方法	筆記試験、グループワーク参加状況および発表にて評価する			

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期
統合分野	在宅看護論実習	2(90)	3年	前期・後期
担当教員	横川 隆子	実務経験	総合病院、居宅支援事業所にて実務経験あり。	
授業形態	臨床実習			
目的	地域で生活しながら療養する対象とその家族を理解し、保健・医療・福祉サービスの活用の実際を知り、在宅看護を実践する基礎的能力を養う。			
目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 疾病や障害を持ちながら生活の場で療養する人(対象)とその家族の健康上の問題を理解できる。</li> <li>2. 対象・家族のQOLを考慮した生活の維持・拡大・自立に向けての援助について理解できる。</li> <li>3. 在宅看護活動に必要な基本的援助技術を身につける。</li> <li>4. 対象が生活している地域の社会資源の活用方法と連携のあり方を知り、看護師の役割を理解できる。</li> </ol>			
内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1:1) 利用者の身体的・心理的特徴を知る。 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 家族を一つの単位としてとらえることを理解する。</li> <li>2) 記録や事前情報、または同行訪問をした中で得た情報を、「家で生活する」事を理解するために必要とされる一般的な知識を用いて解釈分析をする。</li> </ol> </li> <li>(1) 療養者本人だけでなく家族構成員のライフサイクル、発達課題の達成状況はどのようなになっているか理解する。</li> <li>(2) 健康障害・治療上の制約が療養者や家族の日常生活に及ぼす影響はどのようなものか理解する。</li> <li>(3) 利用者・家族の生活習慣・生活様式・生活信条・価値観を理解する。</li> <li>(4) 家族関係・家庭での位置・生活史・社会的役割・経済面・生きがい・地域とのつながりはどのようなものか理解する。</li> <li>(5) 在宅療養を支えている家族の介護状況はどうか、思い、気がかりはどのようなものか知ることができる。</li> <li>(6) 残存能力や社会的な環境も含めた長所、資産(有利な条件)はどうか知ることができる。</li> <li>3) 以上を前提として療養者の在宅療養の意味を考え、理解する。療養者・家族にとってのよりよい生活とはどのようなものか考察する。</li> <li>2:1) 訪問看護の目的を知り、理解する。 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 療養者・家族の訪問看護に対するニーズを把握する。</li> <li>(2) 同行訪問時の訪問目的を理解する。 <ol style="list-style-type: none"> <li>2) 同行訪問し療養者の生活に触れ、訪問看護を見学・共同実施する中で援助の実際を理解する。</li> </ol> </li> <li>(1) 療養生活上の問題の基礎となる疾患・障害に関する援助とはどのようなものか理解する。</li> <li>(2) 生活習慣・自己決定を尊重した日常生活の援助はどのようなものか理解する。</li> <li>(3) 在宅療養者・家族に行われている指導・助言はどのようにされているか理解する。</li> <li>(4) 介護負担軽減のために工夫はどのようなものがあるか理解する。 <ol style="list-style-type: none"> <li>3) 在宅療養者・家族に対し、訪問看護の特徴を考えた看護過程を理解する。</li> <li>4) 実際に作成した訪問看護計画の内容を、訪問看護師の援助と比較対照させながら考察する。</li> </ol> </li> </ol> </li> <li>3:1) 在宅療養者と家族のかかわりを通して、看護師として責任ある行動をとる事が理解できる。 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 訪問マナー、身だしなみ、プライバシー保護、守秘義務など。</li> <li>2) 在宅療養者と家族の話を誠実に受け止めて聴く事を理解する。</li> </ol> </li> <li>4:1) 在宅療養者と家族が活用している社会資源とその効果はどのようなものか理解できる。 <ol style="list-style-type: none"> <li>2) 在宅療養者と家族がよりよい生活と自立のために利用可能な社会資源の導入について考察する。</li> </ol> </li> <li>5:1) 在宅療養者と家族を支える保健・医療・福祉の職種と連携の方法を理解できる。 <ol style="list-style-type: none"> <li>2) 在宅療養者と家族がその人らしく生きるために、在宅療養者を支える看護師の役割について考察する。</li> </ol> </li> <li>6:1) 訪問看護ステーションの特性、利用者・地域の特性について説明を受け理解する。 <ol style="list-style-type: none"> <li>2) 運営責任者が看護師であるなど、看護の自立・看護管理について説明を受け理解する。</li> <li>3) 独立採算部門であることなど、経済効率について説明を受け理解する。</li> <li>4) サービス提供事業所であること、質の高いサービスを提供する必要性について説明を受け理解する。</li> </ol> </li> <li>7:1) 地域包括支援センター・居宅支援事業所の機能と役割が理解できる。</li> <li>8:1) 地域包括支援センター・居宅支援事業所で提供されるサービスについて理解できる。</li> <li>9:1) 介護支援計画(ケアプラン)の作成や同行を通して地域包括支援センター・居宅支援事業所の役割が理解できる。</li> <li>10:1) 在宅を支える法的仕組みについて理解できる。</li> <li>11:1) 介護認定確定までの経過がわかる。</li> </ol>			
評価方法	学習状況、実習目標達成度、出席状況、実習態度等による総合評価(評価表あり)			

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期
統合分野	看護管理	1(15)	3年	前期
担当教員	田辺 美代子、前田 由紀子	実務経験	看護師として病院勤務経験あり。	
授業形態	講義			
目的	新しいヘルスケアシステムを創造し、チームや組織、システムを動かしていく活動を理解する。			
目標	看護のマネジメントについて基礎的な知識を学ぶ。 チーム医療及び他職種との協働の中で、看護師としてのメンバーシップ及びリーダーシップを学ぶ。			
授業内容	回	項目	内 容	
	1	看護とマネジメント	1. 看護管理学とは 2. 看護におけるマネジメント	
	2	ケアのマネジメント	1. ケアのマネジメントと看護職の機能 2. 患者の権利と尊重 3. 安全管理 4. チーム医療 5. 看護業務の実践	
	3	看護職のキャリアマネジメント	1. キャリアとキャリア形成 2. 看護職のキャリア形成 3. 看護専門職としての成長 4. タイムマネジメント 5. ストレスマネジメント	
	4 ・ 5	看護サービスのマネジメント	1. 看護サービスのマネジメント 2. 組織目的達成のマネジメント 3. 看護サービス提供のしくみづくり 4. 人材のマネジメント 5. 施設・設備環境のマネジメント 6. 物品のマネジメント 7. 情報のマネジメント 8. 組織におけるリスクマネジメント 9. サービスの評価	
	6	マネジメントに必要な知識と技術	1. マネジメントとは 2. 組織とマネジメント 3. リーダーシップとマネジメント 4. 組織の調整	
	7	看護を取り巻く諸制度	1. 看護の定義 2. 看護職 3. 医療制度 4. 看護政策と制度	
	教科書 参考書	系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践 [1] 看護管理 第10版 (医学書院)		
評価方法	筆記試験			



分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期
統合分野	医療安全	1(30)	2年	前期
担当教員	舟木 裕子、石飛 映美	実務経験	看護師として病院勤務経験あり。	
授業形態	講義 演習			
目的	医療事故がおこる過程と、それを防止するための対策について理解する。			
目標	安全管理の基本知識を学び、ケア提供に際して安全を確保するための実際を学ぶ。			
授業内容	回	項目	内容	
	1	医療安全と看護の責務	1. 看護師および看護業務の法的な規定 2. 看護職能団体の取り組み	
	2	医療安全施策と医療の質の評価	1. 医療安全に関する国の取り組み 2. 医療事故等の定義・分類 3. 医療事故等の報告制度 4. 医療の質の評価について	
	3 ・ 4	事故発生のメカニズムと防止対策	1. 事故発生のメカニズム 2. 事故分析 3. 事故対策	
	5 ・ 7	医療機関における安全対策	1. 組織としての取り組み 2. 事故の原因と対策の検討、そして実施 3. 患者・家族との協働による取り組み 4. 全員参加の医療安全：安全文化の醸成	
	8 ・ 11	看護における安全対策	1. 看護業務と事故発生要因 2. 医療事故の種類と安全対策	
	12	医療事故後の対応	1. 医療事故発生時の初期対応の考え方、方法 2. 紛争化の防止対策 3. 専門職としての個々人の備え 日本看護協会「看護職賠償責任保険制度」 4. 患者の安全確保と医療者の安心確保のために	
	13 ・ 14	看護業務上の危険と防止策	1. 感染管理 2. 医療機器・機材の使用に関わるもの 3. 医療品への曝露 4. 労働形態、作業に伴うもの 5. 患者、同僚および第三者による暴力	
	15	看護学生の実習と安全	1. 実習における事故の法的責任と補償 2. 実習中の事故予防および事故発生時の学生の対応 3. 習得すべき看護技術のリスクと安全 4. 実習における安全についての指導者の役割 予防と事故発生時の対応	
教科書	ナーシング・グラフィカ 看護の統合と実践② 医療安全 第3版 (メディカ出版)			
参考書				
評価方法	筆記試験			

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期
統合分野	災害看護	2(45)	3年	前期
担当教員	松近 真紀、岩田 春子	実務経験	看護師として病院勤務経験あり。	
授業形態	講義 演習			
目的	災害時における看護実践のための基礎的な知識を習得する。			
目標	災害が社会の変化や地域の人々の暮らしと密接に関係しながら、人々の生命や生活に影響を及ぼすこと、更に社会における看護の役割を果たすために必要な災害各期の看護活動を学ぶ。			
授業内容	回	項目	内 容	
	1 5 6	災害及び災害看護に関する基礎的知識	1. 災害看護の歴史的展望 2. 災害看護の定義と概要 3. 災害サイクル、災害種類別・対象者別による被害の特徴 4. 災害看護に関連する理論	
	7 8 9	災害発生時の社会の対応やしきみ、個人の備え	1. 災害に関連する制度・情報伝達 2. 国際的支援のしくみ・災害関係看護の支援体制 災害ボランティア活動	
	10 11 12	災害が人々の生命や生活に及ぼす影響	1. 災害時の地域アセスメント 2. 災害種類別、疾患の特徴 被災者の体験談 3. 災害時の心得	
	13 14 15 16	災害時に看護が果たす役割・災害各期における看護支援活動	1. 災害看護の基本的な考え方と看護の役割・災害関連機関との連携・避難所・仮設住宅の看護(中長期)・保健衛生管理 トリアージ・心のケア	
	17 18 19 20 21 22	災害時に必要な看護技術	1. トリアージ・搬送法 2. 心肺蘇生法 3. 応急処置(外傷・熱傷・骨折) ※赤十字救急法の基礎技術 4. 包帯法	
	23	テスト		
教科書 参考書	ナーシンググラフィカ 看護の統合と実践③ 災害看護 第4版(メディカ出版)			
評価方法	授業態度、レポート、筆記試験			

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期
統合分野	統合実践実習	2(90)	3年	後期
担当教員	田中 朱美	実務経験	総合病院にて実務経験あり。	
授業形態	臨床実習			
目的	看護チームの一員としての看護体験、複数患者の受け持ち看護を通して、知識・技術・態度を統合し、看護実践力を養う。			
目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護部の役割や病棟看護師長の役割を理解し、病棟管理の実際や他部門との調整等見学をとおして看護管理の実際が理解できる。</li> <li>2. 看護チームの機能と役割を理解し、チームの一員として行動できる。</li> <li>3. 複数患者を受け持ち、患者の状況をアセスメントし、適切な看護が実施できる。</li> <li>4. 治療・検査・処置等の診療の補助技術を、安全性、正確性を考慮しながら実施できる。</li> <li>5. 看護専門職としての責任を認識し、人間の生命および人間としての尊厳・権利を尊重する。</li> <li>6. 夜間における看護師の役割が理解できる。</li> </ol>			
内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 : 1) 看護管理の実際について理解する。 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 病院組織機構 (2) 看護理念 (3) 看護方式 (4) 病院看護機能評価 (5) 病床管理 (6) 看護職員・看護学生の教育指導 (7) 安全管理・施設・設備・物品管理 (8) 他部門との連絡調整 (9) 看護部組織における報告・連絡・調整の実際 (10) 職員の配置 (11) 勤務時間管理の実際 (12) 職員の健康管理</li> </ol> </li> <li>2 : 1) 1日の行動計画をチームと調整できる。 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 看護方式との関連で自分の役割を考えて行動できる。</li> <li>(2) 午前午後、患者の状態からアセスメントした内容を定時に報告することができる。</li> <li>(3) 病棟を離れるときは責任をチームに委譲できる。</li> <li>(4) あいまいな情報・困ったことは意思表示し自ら相談できる。</li> <li>(5) 他部門との調整の必要性を判断し報告できる。</li> <li>(6) 自分の能力を判断し支援を受けることができる。</li> </ol> </li> <li>3 : 1) 複数患者の看護ケアの優先度を判断して行動できる <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 複数の受け持ち患者について病棟で展開されている看護実践や他情報を得て患者の理解に役立てる。</li> <li>(2) ケアや処置の内容・スケジュールを把握して複数の受け持ち患者の1日の援助の計画を立てる(所定の用紙)。</li> <li>(3) 複数患者に対し看護ケアの優先度を考え、看護実践する。</li> </ol> </li> <li>2) 患者の個別性に応じた看護実践ができる。 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 健康レベルに応じた日常生活の援助ができる。</li> <li>(2) 医師の指示を確認し目的や合併症など熟知したうえで、指導者とともに診療に伴う援助ができる。</li> <li>(3) 対象に必要な生活指導ができる。</li> <li>(4) 家族・面会者への指導・介入ができる。</li> <li>(5) 継続看護のシステムを理解し必要時調整できる。</li> </ol> </li> <li>3) 安全な技術の提供ができる。 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 褥瘡・転倒アセスメントスコアを活用し危険因子の評価を行い必要時予防対策を立案し援助できる。</li> <li>(2) 対象の条件による危険因子の予測をして援助ができる。</li> <li>(3) 援助時、自分の能力による危険因子を予測して援助できる。</li> </ol> </li> <li>4 : 1) 受け持ち患者及び当該病棟の患者に予定されている治療・検査・処置など。 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 受け持ち患者に実施されている点滴の準備、輸液の管理の実施</li> <li>(2) 血糖測定検査等の実施</li> <li>(3) インスリン注射等</li> </ol> </li> <li>5 : 1) 看護行為と医行為を認識して行動ができる。 <ol style="list-style-type: none"> <li>2) 患者の意思を尊重し自己決定を促す援助ができる。</li> <li>3) 個人情報の保護ができる。</li> <li>4) 主体的な自己学習の継続ができ、学習効果を看護実践に活用できる。</li> </ol> </li> <li>6 : 1) 夜間実習をとおして受け持ち患者の夜間における反応や状況を理解できる。 <ol style="list-style-type: none"> <li>2) 行った看護を振り返る。</li> </ol> </li> </ol>			
評価方法	学習状況、実習目標達成度、出席状況、実習態度等による総合評価 (評価表あり)			